



(題字 小黒千足 学長)

第381号
(平成8年9月号)



▲ 完成した経済学部校舎

目 次

関係法令	3	◆ 防災・安全チェックを実施	17
学内規則	3	◆ “外国人留学生のための進学説明会’96”に参加して	18
諸会議	4	◆ 富山地区国立学校技術職員研修を実施	18
学 事		◆ 学内レクリエーション（ソフトボール大会，硬式庭球大会，バドミントン大会）を実施	20
◆ 平成8年度文部省在外研究員派遣者の決定	5	◆ 全国公務員レクリエーション共同行事富山地区ソフトボール大会で本学が健闘	21
人事異動	6	◆ 海外渡航者	22
平成9年度富山大学における学部・大学院の整備充実計画について①	7	職 員 消 息	
学内諸報		◆ 住所変更	23
◆ 教育学部附属教育実践研究指導センター長に山極教授を再選	11	◆ 新任者住所	23
◆ “夢大学 in TOYAMA ’96”を開催	11	◆ 訃 報	24
◆ 経済学部校舎及び地域共同研究センター増築工事が完成	13	主 要 行 事	25
◆ 経済学部校舎竣工記念式典を挙行	16	お 知 ら せ	27
◆ ロシア連邦極東国立総合大学附属東洋大学と学部間交流協定を締結（経済学部）	17		



▲ “夢大学 in TOYAMA ’96” 総合開会式テープカット



▲防災・安全チェックでの避難訓練

関 係 法 令

(政 令)

- 国立学校設置法施行令の一部を改正する政令（288）
（平 8 . 9 . 26 官報第1985号）

(省 令)

- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（文部33）（平 8 . 9 . 30 官報第1987号）
- 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令（同34）（同上）

(規 則)

- 人事院規則 8 - 18（採用試験）の一部を改正する人事院規則（人事院 8 - 18 - 10）
（平 8 . 9 . 20 官報第1982号）

- 人事院規則17- 0（管理職員等の範囲）の一部を改正する人事院規則（同17- 0 - 43）
（平 8 . 9 . 25 官報第1984号）

(告 示)

- 平成 9 年度科学研究費補助金の各種目の計画調書の提出期間等を定める件（文部153）
（平 8 . 9 . 2 官報第1969号）

学 内 規 則

富山大学人文学部規則の一部改正

富山大学人文学部規則の改正理由

国際文化学科の授業科目を見直し、外国人留学生の専門教育の充実を図るため、所要の改正を行う。

富山大学人文学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成 8 年 9 月20日

富山大学長 小 黒 千 足

富山大学人文学部規則の一部を改正する規則

富山大学人文学部規則（昭和52年 5 月16日制定）の一部を次のように改正する。

別表 I（第 3 条第 2 項関係）国際文化学科の表中、

視聴覚教育	2
卒業研究	10

を

」

「

視 聴 覚 教 育	2
日 本 語 表 現 法	4
日本語・日本文化論講読	8
日 本 文 化 論 演 習	8
卒 業 研 究	10

に改める。

」

附 則

この規則は、平成 8 年 9 月20日から施行する。

富山大学大学院教育学研究科規則の一部改正

富山大学大学院教育学研究科規則の改正理由

教育学研究科理科教育専修及び保健体育専修の教育内容の充実を図るため、所要事項を改める。

富山大学大学院教育学研究科規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成 8 年 9 月 20 日

富山大学長 小 黒 千 足

富山大学大学院教育学研究科規則の一部を改正する規則

別表第 1 (第 3 条関係) ⑤保健体育専修の運動学の項を次のように改める。

富山大学大学院教育学研究科規則 (平成 6 年 3 月 14 日制定) の一部を次のように改正する。

別表第 1 (第 3 条関係) ③理科教育専修の物理学の項を次のように改める。

物 理 学	物 理 学 特 論 I	2
	物 理 学 特 論 演 習 I	2
	物 理 学 特 論 II	2
	物 理 学 特 論 演 習 II	2
	物 理 学 特 論 III	2
	物 理 学 特 論 演 習 III	2

運 動 学	運 動 学 特 論 I	2
	運 動 学 特 論 演 習 I	2
	運 動 学 特 論 II	2
	運 動 学 特 論 演 習 II	2
	運 動 学 特 論 III	2
	運 動 学 特 論 演 習 III	2
	運 動 学 特 論 IV	2
	運 動 学 特 論 演 習 IV	2

附 則

この規則は、平成 8 年 9 月 20 日から施行する。



第 2 回学寮委員会 (9 月 12 日)

(審議事項)

- (1) 寮生よりの要求事項 (調理師及び炊婦) について
- (2) その他

第 2 回教養教育委員会 (9 月 13 日)

(審議事項)

- (1) 平成 9 年度以降のカリキュラム等の見直しについて
- (2) 富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則の一部改正について

(3) 富山大学教養教育委員会規則の一部改正について

(4) 富山大学教養教育委員会内規の一部改正について

(5) 平成 8 年度非常勤講師任用計画の一部変更及び資格審査について

(6) その他

第 1 回留学生会館運営委員会 (9 月 18 日)

(審議事項)

- (1) 平成 8 年 10 月留学生会館入居者の選考について
- (2) その他

第5回部局長懇談会（9月20日）

（議 題）

- (1) 当面の諸問題について
- (2) その他

第2回大学院委員会（9月20日）

（審議事項）

- (1) 富山大学大学院教育学研究科規則の一部改正について
- (2) その他

第5回評議会（9月20日）

（審議事項）

- (1) 富山大学人文学部規則の一部改正について
- (2) 富山大学大学院教育学研究科規則の一部改正について
- (3) その他

第98回構内交通対策委員会（9月24日）

（議 題）

- (1) 交通安全一斉指導及び無許可車両等の一斉取締りの実施について
- (2) 西門の時間閉鎖等について
- (3) その他

第5回事務協議会（9月24日）

（議 題）

- (1) 当面の諸課題について



平成8年度 文部省在外研究員派遣者の決定

種 類	所 属	職 名	氏 名	主たる滞在地及び当該滞在地の属する国名並びに派遣先の機関名	調査研究題目	派遣期間
海外研究 開発動向 調査	教育学部	助教授	向 後 千 春	グリーンズボロ (アメリカ合衆国) ノースカロライナ大学 グリーンズボロ校	マルチメディアとネットワーク の教育利用に関する調査研究	9.3.1 } 9.4.16
	工学部	助教授	西 村 克 彦	グルノーブル (フランス) グルノーブル結晶・表面 研究所	熱電冷却を用いた複合素子に関 する調査研究	9.1.20 } 9.3.1

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
採 用	8. 9. 2	西 村 憲 一		事務補佐員(附属図書館情報サービス課)
	〃	近 藤 俊 彦		〃 (〃)
	8. 10. 1	吉 田 竜 司		助 手 経済学部(経済学科)
昇 任	8. 10. 1	濱 本 伸 治	助教授 理学部(物理学科)	教 授 理学部(物理学科)
配 置 換	8. 10. 1	溝 口 常 俊	教 授 人文学部(国際文化学科)	教 授 (名古屋大学文学部)
	〃	磯 部 彰	〃 〃 (言語文化学科)	〃 (東北大学東北アジア研究センター)
併 任	8. 9. 30	丹 羽 昇	教 授 経済学部(経済学科)	経済学部長・評議員(～10. 9. 29)
辞 職	8. 9. 30	武 脇 誠	助教授 経済学部(経営学科)	辞職を承認する
職務命令	8. 10. 1	奥 田 都	教育学部化学教室	富山大学技術部前任技術専門職員を命ずる 富山大学技術部第一技術班長を免ずる
	〃	高 安 勇 吉	工学部電気システム工学講座	富山大学技術部前任技術専門職員を命ずる 富山大学技術部第二技術班長を免ずる
	〃	高 瀬 博 文	工学部制御システム工学講座	富山大学技術部前任技術専門職員を命ずる 富山大学技術部第三技術班長を免ずる
	〃	北 村 岩 雄	工学部電気システム工学講座	富山大学技術部第二技術班長を命ずる 富山大学技術部第二技術班技術専門職員を免ずる
	〃	高 塚 清 文	庶務部庶務課学事調査係	富山大学技術部第一技術班技術専門職員を命ずる 兼ねて富山大学技術部第一技術班長心得を命ずる 富山大学技術部第一技術班技術主任を免ずる
	〃	渡 辺 秀 一	工学部熱流体システム工学講座	富山大学技術部第三技術班技術専門職員を命ずる 富山大学技術部第三技術班第1主任を免ずる
	〃	室 谷 和 雄	工学部生産システム工学講座	富山大学技術部第三技術班技術専門職員を命ずる 富山大学技術部第三技術班第2主任を免ずる
	〃	藤 岡 和 典	工学部工場係	富山大学技術部第四技術班技術専門職員を命ずる 富山大学技術部第四技術班技術主任を免ずる
	〃	岩 城 廣 光	人文学部・理学部ガラス工作室	富山大学技術部第一技術班第1技術主任を命ずる
	〃	豊 本 勉	総合情報処理センター	富山大学技術部第一技術班第2技術主任を命ずる
	〃	柴 田 幹	工学部物性デバイス工学講座	富山大学技術部第二技術班技術主任を命ずる
	〃	大 山 達 雄	工学部生産システム工学講座	富山大学技術部第三技術班技術主任を命ずる
	〃	中 尾 良 行	工学部工場係	富山大学技術部第四技術班第1技術主任を命ずる
	〃	二 宮 英 治	工学部工場係	富山大学技術部第四技術班第2技術主任を命ずる

平成 9 年度富山大学における学部・大学院の整備充実計画について①

本学では、学部及び大学院の組織・定員を整備・充実するため、平成 9 年度概算要求を行っていましたが、このたび、文部省から大蔵省への要求内容が明らかとなりました。

今回の計画は、平成 5 年度教育改革（① 4 年一貫教育の実施を主とする教育課程の改革，② 教養部の廃止と学部の充実を図る組織の改革）に続く，第 2 の教育改革と言えるものであり，教養教育と専門教育の一層の充実と学部の改革が柱となっています。

そこで，本号と次号の 2 回にわたり，各学部と研究科の改革の概要を当該学部長に執筆願ひ掲載します。

人文学部及び人文科学研究科の改組・整備計画について

人文学部長 小 澤 浩

I 人文学部学科の改組

人文学部では，平成 5 年（1993）の大学改革で，国際文化学科の新設，大講座制への移行等を含む大幅な学部改革を行い，旧教養部から 30 人の教員を迎え入れて専門教育の充実を図ると共に，全学の教養教育の重要な一翼を担って，その改革の推進に寄与してきました。教養教育においては，授業の公平負担の原則のもとに，学部の全教員が教養原論，総合科目，外国語，言語表現等の各科目を担当することになり，大幅なカリキュラム改革と相まって，その多彩なメニューが学生たちの知的欲求を刺激し，教育効果を高めています（この点については，「教養教育に関する学生アンケート報告書」等をご参照下さい）。

一方，学部の研究・教育組織においても，大幅な改革が行われ，大講座制への移行によって各専門分野間の交流が盛んとなり，大講座・学科共通の授業科目や専門基礎科目の新設によって，4 年一貫教育の主旨を生かした総合的な専門教育の在り方が確立されつつあります（この点については，現状への反省，批判を含めて，人文学部の自己点検評価報告書『富山大学人文学部の現状と課題－1993 年度』に詳述されております）。

とりわけ，新設の国際文化学科では，豊かな教養，国際的な感覚，実践的な語学力等を身につけた国際化時代にふさわしい人材の育成を目的として，地球環境，文化摩擦，マイノリティー，エスニシティーなど今日の国際社会が直面している重要問題の解明を課題とする「環境地域論」と，環日本海地域におけるかつての日本の侵略の歴史を直視しつつ，その反省の上に立った相互理解，経済的・文化的交流の発展を中心課題とする「国際文化関係論」の 2 講座が設置され，新たな時代の学問的，社会的要請に積極的に応えてきました。

しかし，近年地域の自治体や企業，教育文化機関等から，すでに環日本海地域の言語文化研究に実績のある本学部に対して，環日本海交流の要となる人材養成の要望がいよいよ強まってきておりますが，現在の教育・研究体制では，そのような要請に応えるのに，まだ十分とは言えないものがあります。

このような状況に鑑みて，本学部では，平成 9 年度に向けて，国際文化学科の更なる充実を目指し，国際文化関係論講座にあってはその名称を「国際文化論講座」と改め，現在の日中・日ロだけではなく環日本海地域を構成する日本・中国・朝鮮・ロシアに米国を加えた多角的な交流関係を，それぞれ地域研究の基礎を踏まえてトータルに扱い得る総合研究の場として再編強化し，環境地域論講座にあってはその名称を「文化環境論講座」と改め，これまで国際文化関係論講座にあった比較文学の分野を吸収して，国際的な文化環境の問題にアプローチするさまざまな方法論を総合的に研究する場としての機能を一段と強化し，この両講座の緊密な連携によって所期の目的を成就するよう，学科の抜本的な改革を図ることにしました。その概要については，次頁の表に示した通りです。

ご覧のように，大きく変わるのは国際文化関係論講座の方で，現在の日中文化関係論と日ロ文化関係論の 2 つのゼミナールは，改組後の国際文化論講座では国際文化論コースのなかに発展的に取り込まれ，同コースは日本，中国，朝鮮，ロシア，アメリカの各地域文化研究を踏まえた多角的な交流関係の解明を目指す一大コースとなります。これを実現するため，計画では同じく平成 9 年度に向けて改組を目指している教育学部から 10 名の学生定員と 1 名の教官定員を迎え入れ，学部内からも教官定員を移して，同学科の教育・研究体制の刷新を図ることにしております。

————— 国際文化学科改組の概要（入学定員40人→50人） —————

〈現 行〉

環境地域論講座……教員数 9

考古学コース

人文地理学コース

文化人類学コース

比較社会論コース

国際文化関係論講座……教員数 6

日中文化関係論ゼミナール

日ロ文化関係論ゼミナール

比較文学コース

[留学生教育]

〈改 組 後〉

文化環境論講座……教員数 11

考古学コース

人文地理学コース

文化人類学コース

比較社会論コース

比較文学コース

国際文化論講座……教員数 10

国際文化論コース

[日本文化・中国文化・朝鮮文化
・ロシア文化・アメリカ文化]

[留学生教育]

II 人文科学研究科の整備

人文学部は、人文学の諸分野にわたる総合的・学際的な教育研究を通して高度の専門的知識と学際的な視野を備えた人材を育成し、社会の文化的諸要請に応えることを目的として、昭和61年（1986）、大学院人文科学研究科（修士課程）を設置しました。研究科には「日本・東洋文化専攻」と「西洋文化専攻」の2専攻を置き、日本を含む東洋と西洋の二大地域文化における共通性、普遍性とそこに貫かれる個性的な諸原理の解明を目指してきました。爾来9年、本研究科は所期の目的を果たすべく鋭意努力を重ね、入学志願者は着実に増加し、多くの有為の人材を社会に送り出しております。

しかし、近年世界情勢が著しく変動し、国内の社会情勢も急激に変化しつつあるなか、大学院の教育もこうした時代の進展を的確に見据え、新しい学問的・社会的要請に対応して教育・研究の幅を広げ、その質を

高めていくことが求められております。また、上述の平成5年の学部改革によって増設された心理学、社会学、国際文化関係論、比較社会論、フランス言語文化の5つの学問分野を2専攻のなかに組み込み、大学院教育を一層充実させていく必要があります。このことから、本研究科は、学部改組の完成年度を機に、平成9年度に向けて、従来の「日本・東洋文化専攻」と「西洋文化専攻」を、より多くの研究分野を包摂できる総合的な研究領域としての「文化構造研究専攻」と「地域文化研究専攻」に改め、それに伴って必要とされる教育・研究体制の整備を図ることにしました。（入学定員は現行どおり10人である。）

以上の学科改組と研究科の整備が実現されれば、人文学部の更なる発展が期待できます。もとより、制度的な手直しは改革の必要条件ですが、十分条件ではありません。私たちは、改革に真の内実が与えられるよう、日々の努力を大切にしたいと思います。

教育学部及び教育学研究科の改組・整備計画について

教育学部長 田 中 晋

I 教育学部の改組について

1. 学部改組の目的

現在、わが国の教育は大きな変革を迫られています。社会が急速に複雑化、多様化、高度化してきており、そこにおける教育の意味はますます重要な意味を持つようになってきました。こうした中で学校教育の指導者養成に大きな社会的期待が寄せられています。

これらの社会的要請に応じて、本学部では従来の教

育組織を改編し、魅力ある教育学部を目指して、組織、カリキュラム等の見直しを全面的に行い、今回の改組の基本的枠組みを次のように設定しています。

(1) 教員養成の質的向上を企図するとともに、今後の教員需給の動向を考慮し、教員養成系課程（小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、養護学校教員養成課程、幼稚園教員養成課程）を学校教育教員養成課程に統合し、学生入学定員を200人から150人に

縮小し、より密度の濃い充実した教員養成の体制を整える。

- (2) 教育改革の基本的視点である「生涯学習体系への移行」に沿って、生涯学習指導者の養成を含む教育の広い分野での人材育成を目指して、既存の情報教育課程を見直し、総合教育課程に再編する。総合教育課程には、情報教育コース入学定員20人、環境教育コース入学定員10人、生涯スポーツコース入学定員10人の3コースを設ける。

この改組にあたっての理念と目標を次のように定めました。

- (1) 本学部は、教育の基礎を担う義務教育等の教員養成と学校教育以外の広い分野で教育に関わる人材育成という2つの柱から構成されます。学校教育教員養成課程では、児童・生徒の人間形成に関与し高度の教育力を持つ教員養成を目指し、学校教育以外の広い分野で教育に関わる人材の育成を目指す総合教育課程では、情報教育、環境教育、生涯スポーツの分野での専門的力量を持つ人材の育成を目指します。さらにこの2つの課程は教育内容をお互いにリンクさせ、それぞれの課程の優れた教育内容を双方が共有するように工夫してあります。
- (2) 学校教育教員養成課程では、児童期から青年前期の発達過程全体を視野に入れた広い教育的知識と理解力、さらには教育的実践力の獲得を目指す教育内容が設定してあります。また学校教育における諸問題に対応できる能力を養成するため、特に児童・生徒への臨床的指導ができるような教育体制に整備します。
- (3) 総合教育課程の情報教育コースでは、広く情報活用能力を持つ教育システムエンジニアの養成をします。環境教育コースでは、地球規模から身近な環境までを対象とし、自然・社会・ボランティアなどの観点を持つ環境教育に携わる人材の養成をします。生涯スポーツコースでは、生涯にわたる健康保持の観点から生涯スポーツに関わる指導者を養成します。また、本課程のすべての学生に対してコンピュータなどの情報技術に対する習熟を図ります。これらの整備によって、教育現場での諸課題に適切で柔軟な対応のできる高度の教育的実践力と幼児期から青年期にわたる教育全体についての発達の臨床的理解力を兼ね備えた教員の養成、生涯学習時代を見据えた学校教員以外の分野の専門的指導者の養成などが図

られることになると考えられます。

2. 新しい教育学部

(1) 学校教育教員養成課程（入学定員 150人）

これまでの教員養成4課程を統合して、「学校教育教員養成課程」に一元化し、学校教育系（教育学、学校心理学、幼児教育）、障害児教育系（障害児教育）、言語・社会系（国語教育、英語教育、社会科教育）、自然・生活系（数学教育、理科教育、技術教育、家政教育）、芸術・体育系（音楽教育、美術教育、保健体育）の5つの系と14の専攻を設けます。

今の教育現場では、「いじめ、不登校、情報化、国際化」等多様な問題が山積しています。これらの課題に対応するには義務教育全体にわたる幅広い教育的知見が必須であり、そのために、教員養成課程を統合して、小学校教育、中学校教育の両方に精通した教員を養成することを企図したものです。

だれもが原則として複数の教員免許状取得に必要な学習を行い、少なくとも1枚は1種免許状とします。つまり、適性や興味・関心に合わせて、どの学校種、教科の教員を目指すかを検討したあとで、自らの進路を主体的に選びとれるようカリキュラムの弾力化を図っています。

(2) 総合教育課程（入学定員40人）

これまでの情報教育課程を見直し、情報教育、環境教育、生涯スポーツの3コースを備えた総合教育課程に再編します。

本課程では全学生にコンピュータなどの情報技術の習得をさせます。情報教育コースでは、広い情報活用能力をもつシステムエンジニアの養成、環境教育コースでは、自然・社会・ボランティアなどの観点をもち、環境教育に携わる人材の養成、生涯スポーツコースでは、生涯にわたる健康維持と増進の観点から生涯スポーツに関わる指導者を養成します。

(3) 卒業後の進路

従来から教員養成4課程の卒業生の多くは、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校まで広い校（園）種の教員になっています。このあり方はこれまでと変わりません。就職する学校の種類は、教員採用試験を受験するときに、適性・能力に応じて主体的な選択が出来ます。

また、大学院に進学し専門性をさらに深める者や、専攻した分野と関係の深い公務員や企業の一員となって専門的知識と体験を生かして活躍している卒業生もいます。

総合教育課程の卒業生の進路は、情報教育コースでは一般企業、公務員関係などで、情報処理技術を活かしたシステムエンジニア、情報・コンピュータ関係のインストラクター、情報教育のプランナーなどへの進出が期待できます。

環境教育コースでは、公務員関係では環境保全や自然保護に関する企画開発の職員として、また学校教育及び生涯教育に関係した環境教育の教材開発を行うプランナーとして採用が見込まれます。

生涯スポーツコースでは、県市町村の生涯スポーツに関わる職員スポーツ振興財団や体育協会、民間のスポーツ施設、高齢者の介護施設、スポーツ選手のリハビリテーションを専門に行う医療関係機関、民間会社の厚生福利施設、スポーツ用品製作会社などへの採用が期待されます。

(4) 取得できる教員免許状の種類

幼稚園1種免許状、小学校1種免許状、中学校1種免許状、高等学校1種免許状、養護学校1種免許状です。

おわりに

全国の大学で、大学改革の一環として教員養成の学生定員減を伴う学部改組が進められています。平成9年度には全国で8国立大学教育学部の改組が見込まれており、本学部もその中に含まれています。

本学部の改組は、他学部の改組計画と連動したものです。最終的に概算要求にのせることができたのは、学部教職員のみなさんはもちろんのこと、関係

した他学部および全学の教職員のご理解とご協力によるものです。ここに感謝の意を表します。

II 教育学研究科の整備

昭和63年度の「教育職員免許法」の改正に基づき、大学院修士課程修了程度を基礎とする「専修免許状」が新設されたことから、教員養成大学・学部において、大学院の整備・充実が急速に進展し、現在では全国の国立大学に大学院が設置されています。

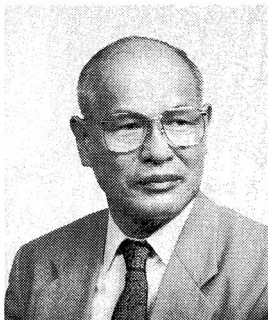
本学部では、平成6年度に義務教育諸学校の指導的立場に立ち得る人材の育成を主たる目的として大学院教育学研究科（修士課程）に学校教育専攻（学校教育専修）、教科教育専攻（数学教育専修、理科教育専修、保健体育専修、技術教育専修、家政教育専修）が設置され、続いて平成8年度には教科教育専攻に国語教育専修、美術教育専修が設置されました。現在では2専攻8専修に29人の入学定員を有しています。

さらに、地元教育界から未設置の音楽教育専修、社会科教育専修及び英語教育専修の整備要請が強く、平成9年度には音楽教育専修の設置を図ることにしました。これによって全専修設置の実現が大きく近づいたことになり、教育学部の更なる発展が期待できます。

なお本研究科は、学部の卒業生に対してはより高度な教育機関として、また地域の教員に対しては再教育の機関として、教育的諸問題に対応できる専門的知識と能力を修得させ、最新かつ高度な教育理論に基づく専門的な研究能力と実践的技能を有する人材の養成を目指しています。（入学定員29人→32人）

学 内 諸 報

教育学部附属教育実践研究指導センター長に山極教授を再選



教育学部附属教育実践研究指導センター長の任期が、平成 8 年 8 月31日で満了することに伴い、去る 7 月10日（水）開催の教育学部教授会において、同センター長の選挙が行われ、その結果、現職の山極教授が再選されました。任期は平成 8 年 9 月 1 日から 2 年間

山極教授は、昭和34年 3 月東京教育大学理学部を卒業後、公立学校教員、都立教育研究所科学研究部生物研究

室指導主事、文部省初等中等教育局教科調査官、視学官、主任視学官等を経て、平成 6 年 4 月同センター教授となり、現在に至っています。

専門は、教育方法学

東京都出身

（就任の抱負）

今回、図らずも、教育学部附属教育実践研究指導センターのセンター長に再び就任することになりました。前回同様ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

現在、中教審等、21世紀を展望した教育改革が精力的に進められております。また、教員養成学部の在り方を審議する、教職員養成審議会も開催されております。

ここでの方向性を見据えるとともに、教育委員会や学校との連携を一層緊密にしていくことが大切であると思っております。

研究情報発信 〈体験、不思議の世界〉

“ 夢 大 学 in TOYAMA ’ 96 ”

「聴いて、見て、触れて」をキャッチフレーズとして開催してきた“夢大学 in TOYAMA”は、今年で 5 回目を迎え、地域に開かれた大学を目指す大学開放事業として次第に定着し、去る 9 月14日（土）、15日（日）の 2 日間にわたり、一部新企画（現職教員の体験入学）を取り入れ“夢大学 in TOYAMA ’ 96”を開催しました。

この事業の目的は、近年、大学の理工系分野への志願者数の減少や青少年の科学技術への興味・関心の低下の懸念が指摘されています。そこで、本学の全ての教育研究施設を開放し、理工系分野にあっては、中学生・高校生には、物づくりを通じて、知的好奇心を触発し理工系分野の魅力を経験させ、その他の分野にあっては大学の教育研究の一端を経験させるなどの体験入学型の事業等を行い、また企業の研究者、経営者を含めた一般社会人に対しては、地域社会との連携・協力推進のためのイベント型の事業を行うことにより、青少年や社会に語りかけるものです。

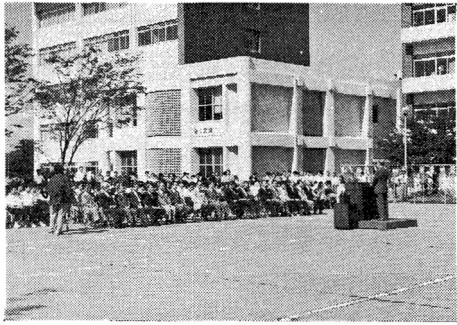
9 月14日（土）は、前日から懸念されていた雨も明け方には上がり、午前 9 時30分から総合開会式が地域共同研究センター前広場で行われ、テープカットの後、小黒学長の開会の挨拶、来賓の祝辞があり、引き続き富山商業高校の生徒によるマーチングバンド演奏がありました。

事業の概要は、2 日間の体験入学（中学生・高校生、現職教員対象）18講座（人文：1、教育：2、経済：1、理：7、工：6、低温液化室：1）に309人の参加者があり、それぞれの講座に別れてカリキュラムに従い小実験・実習等の講義を受け、閉講式は黒田講堂で行われ夢大学学位記が授与されました。

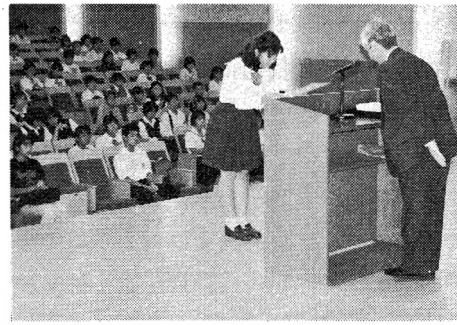
イベントは、第 1 日目だけの開催で、工学部及び地域共同研究センターを主会場として、研究紹介 4 講座（教育：2、経済：1、理：1）、実験等展示（パネル展示）33テーマ（人文：2、教育：1、理：9、工：19、水素同位体機能研究センター：1、放射性同位元素総合実験室：1）及び特別講演 1 講座「レーザー光のふしぎ」の

多彩で興味深いテーマが取り上げられ、特に、「感動！ つくる喜び」コーナーのオリジナルペンダント作りには 順番待ちができるほど盛況で、1,500人を超える参加者

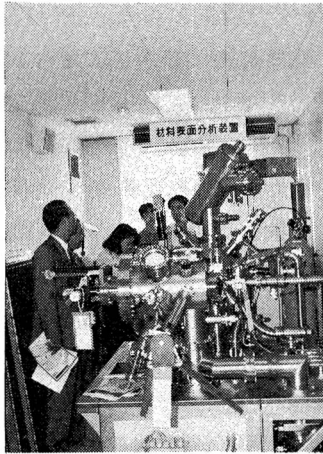
があり、小学生から一般社会人まで各々の会場で、本学 教官や大学院生等から解説や紹介を受け、終日大変好評 を博していました。



▲総合開会式



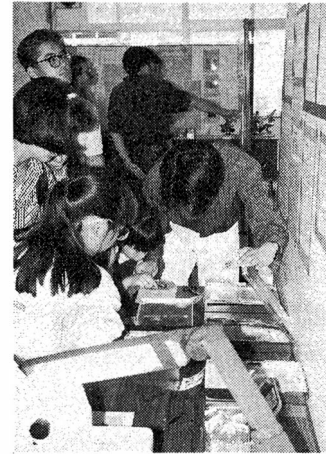
▲体験入学閉講式で池野地域共同研究センター長から代表に夢大学学位記を授与



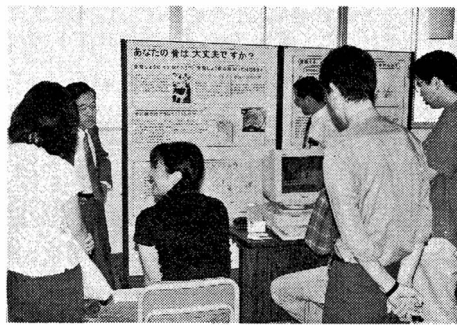
▲原子がつくる美しい幾何学模様



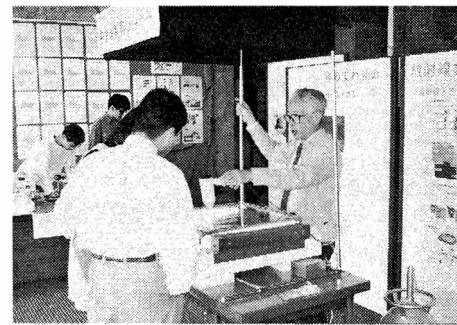
▲感動！つくる喜び



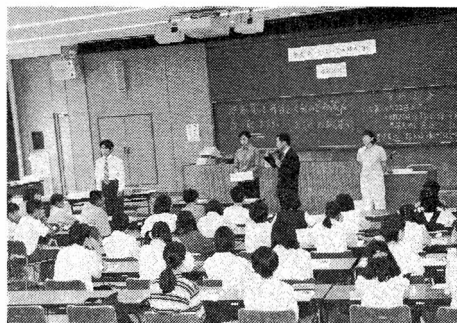
▲アリの社会ー共同と競争



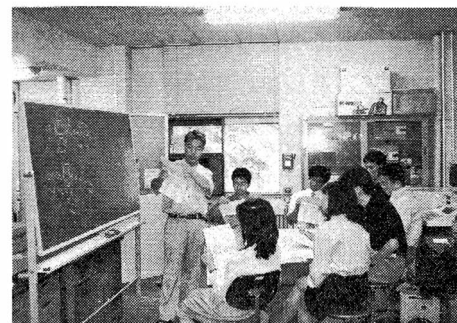
▲あなたの骨は大丈夫ですか？



▲身のまわりの放射線を知ろう



▲体験入学



▲体験入学

経済学部校舎及び地域共同研究センター増築工事が完成

経済学部校舎は、老朽化に伴い平成 5 年 7 月より改築工事が進められてきましたが、第Ⅰ期工事は平成 6 年 5 月31日、第Ⅱ期工事は平成 8 年 6 月26日に竣工、また、地域共同研究センター増築工事も平成 8 年 7 月31日に竣工し、完成しました。

なお、施設概要、設計趣旨等は、次のとおりです。

経済学部校舎完成

施設概要

基本設計	富山大学 施設課	構造・階数	鉄骨鉄筋コンクリート造 7階建
実施設計	建築 株式会社 鈴木一級建築士事務所	建築面積	944㎡ 延床面積 6,288㎡
	電気 株式会社 中部設計	基準柱間	6.5m×6.0m
	設備 株式会社 中部設計	階高	1F 3.8m 2F～7F 3.8m
施 工	建築 前田建設株式会社	外部仕上	屋根 コンクリートこて仕上B種、シート防水 ⑦1.2 着色仕上
	電気 第Ⅰ期 北陸電気工事株式会社	外壁	タイル張り(50ニ丁タイル)一部
	第Ⅱ期 沖電気工事株式会社		複層仕上塗材RE
	設備 菱機工業株式会社	建具	アルミ製建具
	エレベータ フジテック株式会社		
工 期	平成 5 年 7 月～平成 8 年 6 月		

主要室内部仕上

室 名	床	壁	天 井
学生コンピュータ室	タイルカーペット敷き	せっこうボード張り ビニルクロス張り	ロックウール吸音板張り
資 料 室	ビニル床タイル張り	せっこうボード張り E P - 1	化粧せっこうボード張り
研 究 室	〃	〃	〃
大 会 議 室	タイルカーペット敷き	せっこうボード張り クロス張り	ロックウール吸音板張り 一部クロス張り

設計趣旨

全体計画 本学五福キャンパスは再開発を進めており、その一番手として経済学部研究棟の改築を行った。

緑の空間と語らいの場を確保し、キャンパス全体を有効利用するために本建物も高層建物として計画した。

既設建物は工事期間中も使用するので
①既設中庭に S R 7 2,000㎡を建て、そこに半分移転 ②移転で空いた建物の解体 ③跡地に S R 7 4,200㎡を増築 ④残り半分を移転し、残建物の解体 ⑤環境整備というようにビルド&スクラップを基盤として進めた。

平面計画 構内メインストリートに面したL型プランとし、隅角部に玄関を設けた。玄関ホールは丸く吹抜けとし、開放的な雰囲気とした。1・2階は共通部門及び管理部門、3階より上階は研究室等とし静かな環境作りに務めた。

既設演習棟とは1階～4階まで渡り廊下でつなぎ、学生・教職員の移動を容易にした。

デザイン 大学正門付近にある楕円形の黒田講堂との調和をはかり、正面ファサードを円形のカーテンウォールとした。それに反射ガラスを入れ、そのカーテンウォールのミラーガラスには周囲の緑や青空が映

り、景観に楽しい変化を与えている。

環境整備 本学メインストリートは5年度に歩道分離、カラー歩道、ポケットプラザの新設、外灯の整備等を行い、大変好評であった。今回、経済学部周囲にもこの整備を推し進め植栽を行った。

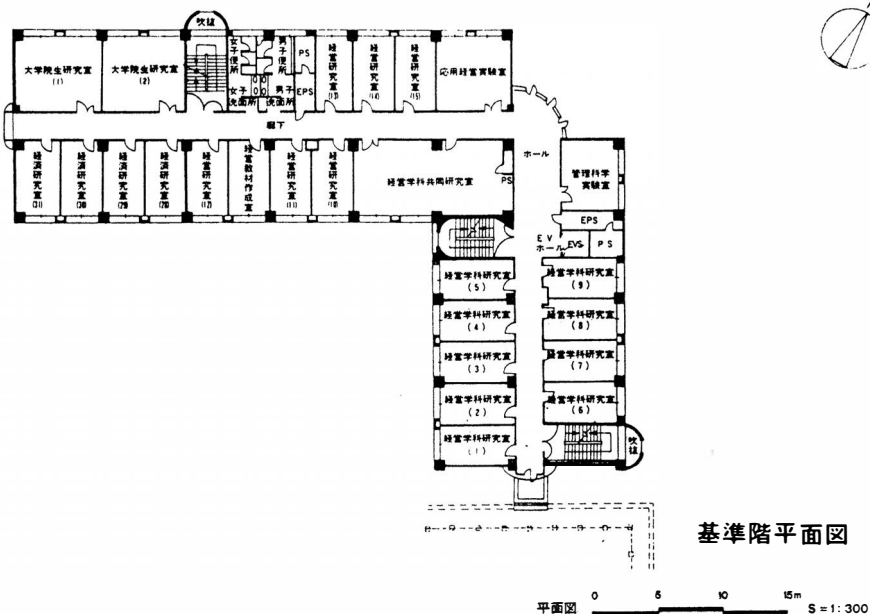
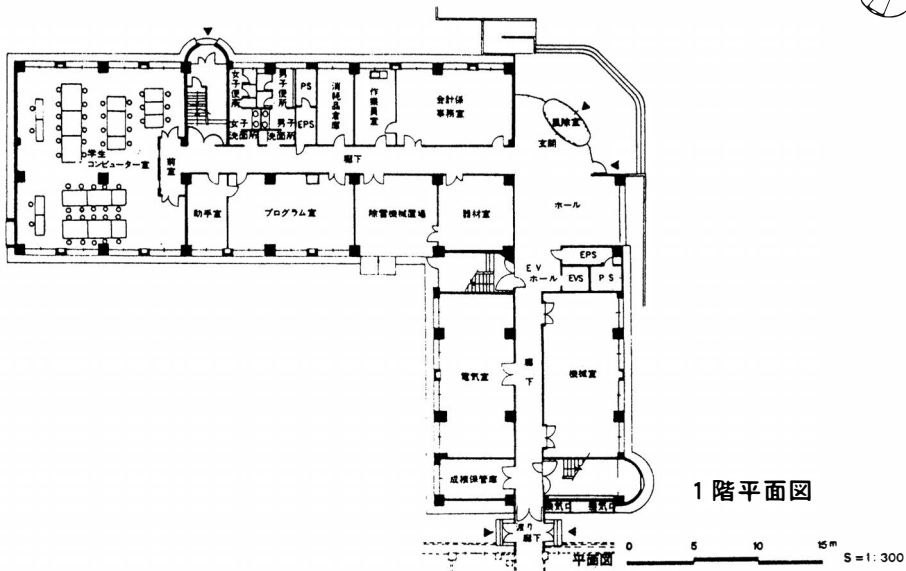
花崗岩を敷いた玄関前のポケットプラザや新設の2か所のミニプラザにはベンチを配し、学生、教職員の憩いの場となっている。植栽は常緑樹と落葉樹のバランスを考慮し、四季折々の花が楽しめるように整備した。

設備計画

電気設備 照明設備を全て伝送式リモコンにて集

中管理出来ることとし、便所に於いては人感センサー等を使用して手を触れずに設備を動作させることとした。電気室・機械室の各設備及び空調設備を中央にて監視制御出来ることとした。各研究室等全てに情報ネットワーク設備を設け、ATM等の高速画像処理による実験を出来るようにした。

機械設備 教官室、研究室、情報関連機器室の空調を個別運転、また大人数部屋について全熱交換器を使用し省エネに配慮した。



地域共同研究センター増築工事完成

施設概要

基本設計	富山大学 施設課
実施設計	建築 富山大学 施設課
	電気 株式会社 中部設計
	設備 株式会社 中部設計
施 工	建築 林建設工業株式会社
	電気 コロムビア電設工業株式会社
	設備 森商事株式会社
工 期	平成8年1月～平成8年7月
構造・階数	鉄筋コンクリート造 2階建
建築面積	737㎡ 延床面積 879㎡
基準柱間	7.0m×6.1m
階 高	1F 3.8m 2F～3.8m
外部仕上	屋根 シート防水 ㊦1.2
	外壁 石材調仕上塗材塗り
	建具 合成樹脂調合ペイント塗り



主要室内部仕上

室 名	床	壁	天 井
大型共同実験室	塗 り 床	内装用復層塗材	木毛セメント板
汎用実験室	V S ㊦ 2.5	内装用復層塗材	化粧石こうボード
資 材 室	塗 り 床	内装用復層塗材	化粧石こうボード
研 究 室	V T ㊦ 2.0	内装用復層塗材	化粧石こうボード

設計趣旨

昭和62年度に建設された既設棟には、主にメカトロニクス、電子デバイス、新素材、バイオテクノロジー、情報処理、資源エネルギー、環境等先端技術の基礎実験室がある。

今回の増築は既設棟の南側に接続し、既設棟と一体の施設として利用できるよう計画した。

大型共同実験室は、約400㎡、階高7.6mで、通常の精密測定装置とは同居が困難な装置類や、大型の特性評価装置を置き、共同研究で装置の試作等を行う室である。

各種の実験に対応できるよう、床には2本の排水溝、上部には天井走行の2t吊クレーンを設け、400tプレスは独立の杭基礎とした。

汎用実験室(1)～(3)は、各分野の素材を高精度の解析装置を用い、それぞれ(1)材料表面、結晶構造等の測定、(2)化学部門の特性評価測定、(3)原子配列等の極限性能測定を行う室である。

特に汎用実験室(3)は電子顕微鏡や微細加工用電子ビーム描画装置を設置するため、完全暗室となるよう計画した。

2階には研究者がコンピュータ及び端末機で実験研究データの解析を行えるよう研究室を設けた。

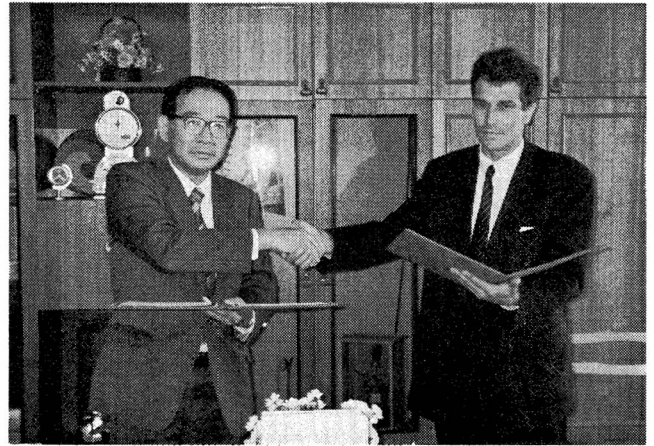
大型共同実験室の暖房は、ガス焚遠赤外線ヒーターを採用し、暖房効率の向上を図った。

研究室系統のエアコンは、切りわすれ防止等省エネ対応として中央スケジュール管理運転を行えるようにした。

ロシア連邦極東国立総合大学附属東洋大学と学部間交流協定を締結

経済学部では、去る9月23日にロシア連邦極東国立総合大学附属東洋大学との間で、増田経済学部長とセルゲイ N イリーン附属東洋大学長が学術交流に関する協定書を取り交わしました。

先般の大韓民国江原大学校経営大学との学部間協定に続き、今回の協定締結により、環日本海を中心とした経済のより深い調査研究、教員・学生の交流及び学術出版物等による情報交換を主な柱とした両大学との交流がさらに進むことが期待されます。

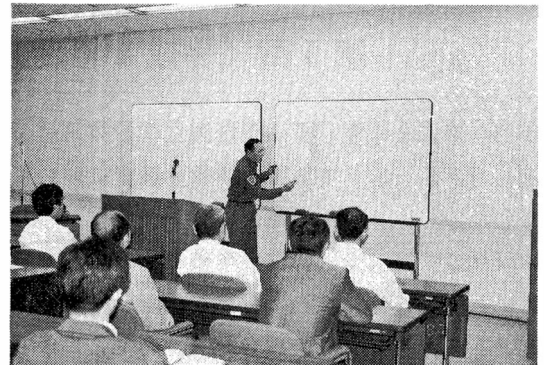


▲締結後握手を交わす増田経済学部長（左）とセルゲイ N イリーン附属東洋大学長

《防災・安全チェックを実施》

去る9月26日（木）、27日（金）の2日間にわたり、富山消防署の消防査察が行われ、危険箇所の点検と地震等の安全対策が十分であるか安全チェックを実施しました。

また、高層建物も増えていることから、富山消防署救助隊による大型ハシゴ車での高層階からの避難訓練も併せて実施すると共に、実際に阪神・淡路大震災時、神戸市に出動した富山市消防署南部出張所長の体験講演もあり、教職員の防災意識の高揚が図られました。



▲消防署員による体験講演

“外国人留学生のための進学説明会’96”に参加して

“外国人留学生のための進学説明会’96”が、去る9月7日（土）に東京池袋ワールドインポートマート展示ホール（4階）において開催されました。

この説明会は、我が国の日本語教育施設において、大学、大学院、短大、専修学校（専門課程）への進学を目指している外国人学生を対象に、我が国の大学等への入学に関する適切な情報の提供を行うことが目的で、(財)日本国際教育協会（AIEJ）の主催、文部省の後援、(財)日本語教育振興協会、(財)アジア学生文化協会、東京YWCA「留学生の母親」運動、ボランティアグループ留学生相談室及び各国留学生会の協力で開催されたものです。

説明会には、国立大学28校、公立大学3校、私立大学113校及び短期大学17校の参加があり、会場は国公立大学、私立大学、短期大学のほか、専修学校や留学生会、入試資料、相談等の各コーナーが設けられ、総数1,425人の来場者でにぎわいました。

富山大学（浜谷学生部長、草開工学部留学生専門教育教官、学生課留学生係事務官が出席）の紹介コーナーには約40人の相談者が訪れ、本学の特徴、教育内容、入学試験科目、入学試験日などのほか、留学生の受験状況と合格ライン及び受入れ状況、奨学金の種類と受給状況、



▲来場者から相談を受ける大学関係者

アパートの家賃、留学生に対する支援状況、交流事業の活動状況等について熱心な質問があり、特に大学院の研究内容、教官への連絡方法、入学試験について具体的な質問も多く寄せられました。

なお、今回の説明会で分かったことは、日本語学校に通う修学生、特に学部の留学を考えている修学生にとって、現状では、本学のことについて知る機会が極めて乏しく、大学の所在地や東京からの交通の便に対する質問が多くあり、今後の情報提供のあり方について知る良い機会となりました。

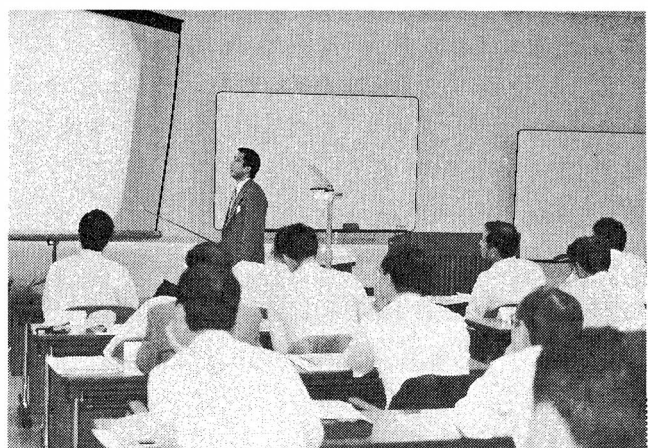
第5回（平成8年度）富山地区国立学校技術職員研修

第5回（平成8年度）富山地区国立学校技術職員研修が去る9月26日（木）本学黒田講堂会議室において実施されました。

この研修は、富山地区の国立学校に勤務する教室系技術職員に対して、その職務に必要な知識、技術を修得させるとともに、相互啓発の機会を与えることにより、職務遂行に必要な能力、資質等の向上を図ることを目的としたもので、富山地区国立学校5機関から、技術職員34名が受講しました。

参加者は、講義ではメモを取りながら熱心に受講し、技術発表では活発な質疑応答や意見交換を行いました。

なお、研修日程及び受講者は、次のとおりです。



▲技術発表

第 5 回（平成 8 年度）富山地区国立学校技術職員研修日程表

9 : 00	10 : 00	11 : 00	12 : 00	13 : 00	14 : 00	15 : 00	16 : 00	17 : 00	
9月26日(木)	開講式 オリエンテーション	講義 「インターネットと 公開鍵暗号体系」 富山大学工学部教授 米田政明	休憩	技術発表 3名 昼食	技術発表 5名	休憩	講義 「廃棄物処理とリサイクル」 「廃棄物の処理とリサイク ルの現状と今後の対策」 富山大学教育学部教授 竹内茂彌	ディスカッション 「研修の在り方について」	閉講式 移動 懇親会

第 5 回（平成 8 年度）富山地区国立学校技術職員研修
受講者名簿

No.	機 関 名	所 属	氏 名	備 考
1	富 山 大 学	教育学部 化学	奥 田 都	技術発表
2	〃	庶務課 学事調査係	高 塚 清 文	
3	〃	人文・理学部 ガラス工作室	岩 城 廣 光	技術発表
4	〃	総合情報処理センター	豊 本 勉	
5	〃	〃	坂 本 江 見	
6	〃	〃	川 原 智 徳	技術発表
7	〃	工学部 電子情報工学科	高 安 勇 吉	
8	〃	〃 〃	北 村 岩 雄	技術発表
9	〃	〃 〃	柴 田 幹	
10	〃	〃 〃	丸 山 博	技術発表
11	〃	〃 〃	大 久 保 篤 志	
12	〃	〃 化学生物工学科	井 澤 真 由 美	
13	〃	〃 機械システム工学科	高 瀬 博 文	
14	〃	〃 〃	渡 辺 秀 一	
15	〃	〃 〃	大 山 達 雄	技術発表
16	〃	〃 物質工学科	中 村 善 志	技術発表
17	〃	〃 機械システム工学科	桐 昭 弘	
18	〃	〃 〃	室 谷 和 雄	
19	〃	〃 〃	友 坂 敏 信	
20	〃	〃 工場係	谷 口 泰 一	
21	〃	〃 〃	藤 岡 和 典	技術発表
22	〃	〃 〃	中 尾 良 行	
23	〃	〃 〃	二 宮 英 治	
24	〃	〃 〃	高 村 浩 之	
25	〃	〃 〃	山 田 聖	
26	富山医科薬科大学	研究協力課 総務係	森 腰 正 弘	
27	〃	〃 〃	西 口 慶 子	
28	〃	〃 〃	松 永 憲 治	
29	〃	〃 〃	道 林 清 美	
30	〃	〃 〃	野 手 姫 代 美	
31	高 岡 短 期 大 学	学生課 実習係	二 上 正 明	
32	富山工業高等専門学校	学生課 技術教育係	伊 藤 通 子	
33	〃	〃 〃	川 越 み ゆ き	
34	富山商船高等専門学校	庶務課 実験実習第二係	坂 口 克 彦	

〈バドミントン大会〉

本学レクリエーション委員会体育部会バドミントン班、文部省共済組合富山大学支部共催による平成8年度学内バドミントン大会が、去る9月28日（土）に本学第1体育館で実施されました。

大会は、約40名の参加を得て、部局（課）対抗6チームにより熱戦が繰りひろげられました。

なお、成績は次のとおりです。

優 勝	経理部チーム
準優勝	教育学部・工学部チーム
3 位	学生部チーム

平成8年度全国公務員レクリエーション共同行事 富山地区ソフトボール大会で本学が健闘

去る9月3日（火）常願寺川公園野球場において、富山地方（家庭）裁判所が世話機関となり、平成8年度全国公務員レクリエーション共同行事富山地区ソフトボール大会が実施されました。

本大会には11機関から14チームの参加があり、本学からもA、B、Cの3チームが参加し、決勝戦では昨年惜敗した富山刑務所チームを破り、見事優勝の栄冠に輝きました。

なお、大会の成績は次のとおりです。

優 勝	富山大学Aチーム
準優勝	富山刑務所チーム
3 位	富山大学Cチーム
3 位	富山医科薬科大学Bチーム

海外渡航者

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
外国出張	理 学 部	助 教 授	大 澤 力	ス イ ス	不均一触媒・ファイン化学 国際会議及びワークショップ 「不均一系エナント選択的触媒」に出席, 研究発表	8. 9. 6 } 8. 9. 15
	〃	教 授	松 浦 郁 也	ス イ ス オ ラ ン ダ ベ ル ギ ー	不均一触媒・ファイン化学 国際会議及び燃焼触媒国際 会議に出席, 研究打合せ	8. 9. 7 } 8. 10. 2
	〃	教 授	高 安 紀	ア メ リ カ 合 衆 国	第 3 回 炭 酸 ガ ス の 除 去 に 関 する国際会議に出席, 研究 発表, 触媒に関する研究打 合せ及び資料収集	8. 9. 7 } 8. 9. 16
	〃	教 授	平 山 実	中 華 人 民 共 和 国	「励起されたコヒーレント状 態の物理的性質」の研究	8. 9. 8 } 8. 10. 20
	工 学 部	講 師	堀 田 裕 弘	ス イ ス	I C I P - 96 に 出 席, 研 究発表, 画像品質評価に 関する調査研究	8. 9. 14 } 8. 9. 22
	〃	教 授	島 崎 長 一 郎	中 華 人 民 共 和 国	第 6 回 精 密 化 学 と 機 能 性 高 分子国際会議に出席, 研究 発表, 機能性高分子に関する 研究打合せ及び資料収集	8. 9. 18 } 8. 9. 28
	水素同位 体機能研 究センター	教 授	渡 辺 国 昭	ド イ ツ	室温作動型水素同位体分離・ 分取システムの開発に關 する研究	8. 9. 18 } 8. 10. 19
	経済学部	教 授	増 田 信 彦	ロ シ ア 連 邦	環日本海経済交流に係る研 究打合せ及び学部間交流協 定の調印	8. 9. 22 } 8. 9. 24
	〃	教 授	榊 原 英 夫	〃	〃	〃
	工 学 部	助 手	米 山 嘉 治	ア メ リ カ 合 衆 国	分散触媒を使用した触媒水 素化反応に及ぼす水の促進 効果の調査研究	8. 9. 23 } 8. 11. 23
海外研修	経済学部	助 教 授	岩 内 秀 徳	マ レ イ シ ア	日系企業の経営行動に関する 先行研究の収集, 日系企業の 海外事業展開に関するヒア リング調査及び工場見学	8. 9. 1 } 8. 9. 13
	〃	助 教 授	酒 井 富 夫	ア メ リ カ 合 衆 国	ワシントン州農業に関する 研究会に出席, 農場視察等	8. 9. 7 } 8. 9. 17
	〃	助 手	坂 出 健	チ エ コ 連 合 王 国 ド イ ツ ス イ ス ベ ル ギ ー	航空機工業に関する資料収集	8. 9. 8 } 8. 10. 11
	教育学部	教 授	西 川 友 之	マ カ オ	マカオにおけるスポーツイ ベント(国際競技大会)の 運営に関する調査研究	8. 9. 9 } 8. 9. 16
	人文学部	助 教 授	村 井 文 夫	フ ラ ン ス	フランス革命期における文 学思想上の論争に関する文 献調査	8. 9. 11 } 8. 9. 28

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
海外研修	経済学部	教 授	安村 勉	中華人民共和国	日・韓・中刑法シンポジウムに出席，中国刑事法に関する資料収集	8. 9. 16 } 8. 9. 21
	〃	助教授	西村 秀二	〃	〃	8. 9. 16 } 8. 9. 21
	〃	助教授	角森 正雄	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国における現代型訴訟に関する調査，資料収集	8. 9. 18 } 8. 10. 15
	人文学部	教 授	小谷 仲男	ウズベキスタン キルギスタン カザフスタン	歴史考古遺物・遺跡の調査研究	8. 9. 22 } 8. 10. 19
	経済学部	助教授	岩内 秀徳	台 湾	日系企業の経営行動に関する先行研究の収集，日系企業の海外事業展開に関するヒアリング調査及び工場見学	8. 9. 22 } 8. 9. 28
	理学部	教 授	鳴橋 直弘	中華人民共和国	中国産キイチゴ属の分類学的研究	8. 9. 29 } 8. 10. 10
	教育学部	助教授	大森 克史	イ タ リ ア	流れ問題と相転移モデルに関する第 1 回 JSIAM-SIM AI シンポジウムに出席。研究発表，資料収集	8. 9. 30 } 8. 10. 11

職 員 消 息

〈住所変更〉

部 局 名	官 職	氏 名
教 育 学 部	教 諭 (附属中学校)	田 中 広 光

〈新任者住所〉

部 局 名	官 職	氏 名
工 学 部	助 手 (生産システム工学)	會 田 哲 夫

計 報

富山大学名誉教授 館 熙道氏逝去



本学名誉教授館 熙道氏が、平成 8 年 9 月 23 日に逝去されました。享年 85 歳。

同氏は、昭和 11 年 3 月東京帝国大学文学部宗教学宗教学史学科を卒業、さらに東京帝国大学大学院に入学されたが、昭和 12 年 9 月充員召集により山砲兵第九連隊に応召のため同大学院を退学された。その後、昭和 14 年 7 月補充兵役免除となり、昭和 14 年 12 月から 1 年間本派本願寺宗務所学務部に勤務、以後、昭和 16 年 3 月富山県師範学校教諭、昭和 18 年 4 月富山県師範学校は官立移管により富山師範学校となると同時に同校助教授、昭和 20 年 5 月同校教授に就任、昭和 24 年 5 月富山師範学校は富山大学に包括されたことに伴い、同年 6 月富山大学富山高等学校教授兼ねて富山大学助教授（文理学部）となられ、昭和 33 年 3 月同大学教授に昇任、昭和 52 年 4 月停年により退職されました。同月本学発展のために尽力した功績により富山大学名誉教授の称号が授与されました。

同氏は、永年にわたり終始熱意と温情をもって学生の教育と指導にあたられ、特に哲学教育の面から理論構成の確立が主眼とされる専門領域において実践的努力を尽し、適切な指導により数多くの優秀な人材を育て上げ社会に送り出されました。

同氏の研究については、富山大学師範学校在職中は、終始宗教哲学的人間学の研究を基礎として、師範学校教育の実践に努められました。また、富山師範学校在職中は、卒業後はすべて義務教育の教師として勤務することを希望する学生の教育が師範学校の本来の使命であることに深く思いを致し、師範学校教育は、直接に、かつ、深く国民教育の根本にかかわる故に、宗教

哲学的人間学を深めながら、その研究に基づいて師範学校教育とその学生の指導に努力されました。特に、昭和 22 年 7 月から同 24 年 8 月まで、富山師範学校附属中学校主事としての在職中を通じて、人間学的教師像の確立に実践的に努力し義務教育における教師像の確立を念頭として、教育実習の充実に格段の努力をされました。富山大学在職中における学術研究としては、人間学的思想を深め、人間存在の根本に在る悪の自覚とその克服に人間存在の意義を明示し、東洋哲学における人間学の研究に取り組むとともに、一方教育行政面では、昭和 36 年 6 月から同 38 年 5 月まで、同 40 年 6 月から同 43 年 12 月までの 5 年 7 か月にわたる評議員在任中は、社会の変動期、動揺期にあり、学生の学業意識の高揚と自覚を促すことに格別の努力をつくすなど、本学の管理運営に参画してその発展に尽力されました。また、学会における活動面では、日本哲学会、日本宗教学会に所属する一方、日本宗教学会の理事として、同学会の研究と運営に貢献されました。

また、同氏は、社会教育の面でも昭和 21 年 3 月から少年保護司、同 25 年 5 月から保護司として昭和 60 年 5 月まで犯罪者の改善・更生を助け犯罪の予防にあたった。この間、40 年に亘り、その任を果すについて、研究主題たる哲学的且つ宗教学的人間学の見地に立ち、深い人間愛的信念を以つて、対象者の更生保護に力をつくすと共に、保護司会の運営に意を用い、社会を明るくする運動に尽力した。この間、社会的に、犯罪者の更生保護と社会を明るくする運動に尽力した功により、昭和 28 年 7 月、富山保護観察所長表彰、昭和 31 年 9 月、中部地方更生保護委員会委員長表彰、昭和 37 年 9 月、全国保護司連盟会長表彰、昭和 41 年 11 月、富山県知事表彰、昭和 45 年 10 月、法務大臣表彰、昭和 52 年 5 月、藍綬褒章をそれぞれ受けられました。

さらに、これらの功績により、昭和 59 年 4 月 29 日勲三等旭日中綬章が授与されました。

ここに同氏の御功績を偲び顕彰するとともに、御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

主 要 行 事

本 部

- 9月2日 中部地区学生補導厚生研究会「白書検討等委員会」（大阪大学）
- 3日 R連盟ソフトボール大会（常願寺川公園）
- 5日 東海・北陸地区管理事務協議会
（名古屋クラウンホテル）
- 第12回カリキュラム等見直し検討小委員会
- 6日 東海・北陸地区国立学校等庶務部課長会議
（名古屋クラウンホテル）
- 7日 1996年外国人学生のための進学説明会
（ワールドインポートマート 東京）
- 7日～11月30日 東海・北陸地区大学放送公開講座・テレビ講座「変容するアジアと日本」
- 9日 秋の国立学校等経理部課長会議
（東京医科歯科大学）
- 学生アンケート実施ワーキンググループ会議
- 10日 労働保険料等基礎調査
（富山ハローワークプラザ）
- 第2回就職連絡会議
- 12日 第2回教養教育委員会企画専門委員会
- 13日 第2回自己点検評価委員会管理運営専門委員会
- 14日～15日 大学開放事業（夢大学 in TOYAMA '96）
- 17日 第1回入学試験実施委員会健康診断専門委員会
第1回学生生活協議会体育部会
- 18日 第5回国際交流委員会留学生部会
- 19日 第2回自己点検評価委員会教育活動専門委員会
第2回自己点検評価委員会研究活動等専門委員会
- 18日～20日 平成8年度国立学校事務電算化講習会
（御車会館 京都）
- 23日 教職員硬式テニス大会
- 24日～25日 平成8年度体育系サークルリーダー研修会
（山野スポーツセンター 富山）
- 25日 第3回教養教育委員会実施専門委員会
- 26日 富山地区国立学校技術職員研修（黒田講堂）
第3回自己点検評価委員会教育活動専門委員会

大学入試広報セミナー（有楽町朝日ホール 東京）

第1回教務委員会専門委員会

26日～27日 夜間教育実施国立大学事務局長会議
（小樽商科大学）

富山消防署査察

27日 東海・北陸近畿地区国立学校等広報、文書研究協議会（京都平安会館）

28日 教職員バドミントン大会

人 文 学 部

- 9月5日 学部国際交流委員会
- 9日 独立大学院（人文・経済合同）委員会
人文科学研究科教務等検討委員会
- 10日 学部教務委員会
- 11日 学部情報処理委員会
教授会
大学院人文科学研究科委員会
- 13日 学部就職指導委員会
平成8年度後学期授業時間割担当者会議
学部将来計画委員会
- 18日 入学者選抜方法検討委員会
予算委員会
- 25日 教授会
教授会（人事）
大学院人文科学研究科委員会

教 育 学 部

- 9月2日 附属養護学校第二学期始業式
附属幼稚園第二学期始業式
- 3日 教育実習運営協議会
- 4日 学部学生生活委員会
学部教務・学生生活合同委員会
学部教務委員会
教育学研究科委員会小委員会
教育学研究科委員会
教授会
- 11日 学部留学生委員会

- 11日 学部入学試験委員会
 18日 人事教授会
 24日 教育学研究科後発教科整備委員会
 学部予算委員会
 25日 学部教務委員会
 26日~27日 平成8年度北陸地区教員養成学部事務長協議
 会(福井大学)
 27日 学部入学試験委員会

経済学部

- 9月2日 学部将来構想検討委員会及び日本海経済研究
 所運営委員会の合同委員会
 3日 学部教務委員会
 大学院経済学研究科委員会小委員会
 4日 論集委員会
 学部将来構想検討委員会(持ち回り)
 大学院経済学研究科委員会
 教授会
 9日 独立大学院博士課程設置に伴う合同打合せ会
 11日 校舎竣工記念式典・祝賀会
 12日 学部施設整備委員会(持ち回り)
 17日 学部教務委員会
 学部入学方法検討委員会
 18日 論集委員会
 人事教授会
 大学院経済学研究科委員会
 教授会
 26日 論集委員会
 30日 各種委員選考委員会

理学部

- 9月3日 学部図書委員会
 4日 学部入学改善委員会
 大学院設置構想推進委員会懇談会
 11日 大学院理学研究科委員会
 教授会
 人事教授会
 19日 学部教務委員会(持ち回り)
 25日 学部自己点検評価委員会
 26日 学部就職指導委員会

工学部

- 9月3日 博士後期課程入学試験
 3日~4日 博士前期課程入学試験
 5日 機種選定委員会(コンピュータ制御式精密万
 能試験機)
 6日 学部学生生活委員会
 YKKインドネシア研修生が工学部を見学
 10日 教授会
 研究科委員会
 博士後期課程委員会
 12日 大学院合格発表
 17日 学部学生生活委員会
 18日 学部教務委員会
 教員任用候補者選考内規検討委員会
 19日 学部入学試験検討委員会
 20日 学部学生生活委員会
 25日 教授会
 研究科委員会
 博士後期課程委員会
 26日~27日 第20回国立大学48工学系学部長会議
 (大分大学)

附属図書館

- 9月26日 第6回附属図書館機能強化検討小委員会

地域共同研究センター

- 9月2日 地域共同研究センター運営委員会
 2日~13日 先端技術研修(情報処理コース)
 3日 先端技術講演会
 6日 材料部会第9回研究発表会
 14日~15日 大学開放事業(夢大学 in TOYAMA '96)
 30日~10月4日 先端技術研修(ファインメカトロニクスコー
 ス)

お 知 ら せ

西門の時間閉鎖について

構内交通対策委員会では、交通事故の防止や教育・研究のための環境保持について鋭意検討し対策を講じているところですが、このたび、入構車両等の交通量の増に伴う交通事故防止等の観点から、西門を下記のとおり時間閉鎖することとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 西門時間閉鎖開始日
平成 8 年11月 1 日（金）
2. 西門開閉時間帯

区 分	開 門 時 間	閉 門 時 間
平 日	8 : 00 ~ 10 : 00	10 : 00 ~ 16 : 00
	16 : 00 ~ 22 : 00	22 : 00 ~ 翌日 8 : 00
休日(土, 日, 祝日等)	—————	終 日

交通安全指導等の実施について

平成 8 年11月 1 日から警備員が構内巡回による交通安全指導及び取締りを下記のとおり実施することとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 交通安全指導及び取締り内容
次の(1)~(3)の構内交通規制違反について指導取締りを行います。
 - (1) 駐（停）車違反
 - (2) 無許可による入構
 - (3) 入構許可証の偽造等
2. 交通規制違反の指導等の方法
構内交通規制違反車両には次のような処置を施します。
 - (1) 注意書または警告書の糊付け
 - (2) 数回の注意、警告にもかかわらず違反した場合は、タイヤロックの取付けを行うこともある。

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電話(24)1755(代)